

マキノ病院ニュース

第104号

—平成30年10月1日発行—

マキノ病院の地域包括ケアシステム

法人事務局長 池山 直樹

地域包括ケアシステムという言葉が最近見かけることが多くなりました。自立した生活を最期まで送ることができるよう、必要な、医療、介護、福祉サービス等を、一体化して提供し、全ての世代で支え、支えられる街づくりをする仕組みのことを言うとのこと

病院で病気を治す時代から、生活の中で病気と付き合っていく時代を見据えているようです。従って、入院の目的は退院を見据え、退院後速やかに普通の生活に戻ることで、あくまでも治療は手段であると考えられています。

ここでは短期間に治療を終了し、元の生活に戻るための入院である必要があります。時々医療、時々介護でも時々就労、自分らしく生き社会貢献できる高齢者を生み出すシステムが目指されているようです。

これらを実践するために入院支援室が各病院に設けられるようになりました。患者さん、ご家族の入院・退院後の不安を軽減するため、入院前から退院支援、入院前から退院を目標においた体制の充実を図るようになりました。看護師だけでなく、理学療法士をはじめとするセラピスト、

管理栄養士、薬剤師等多職種チームが、入院時から退院を目標においた患者さんが元の生活に戻れるためのチーム医療を提供していくようになります。

マキノ病院では、患者様中心の医療と福祉を實踐し、患者様及びご家族の信頼と満足を得ることにより皆様に安心していただける環境の創造を目指しますという理念の實現のため、急性期医療への対応だけでなく長期に療養が必要な方への療養型病床、手術後のリハビリテーションや在宅療養時の急性増悪等に対応するための地域包括ケア病床を準備してまいりました。

さらに、それらを有効に活用するためのリハビリテーションの充実にも力を入れてまいり

ました。全ての病院は、二〇二五年を見据え地域医療計画に則って医療機能を分化し地域の特性に合った地域包括ケアの推進することになっています。国では病院での医療から在宅へ今後20%移行させていく計画のようですが、高島市でも市内の3病院は力を合わせそれらに対応して行こうと協議いたしております。

皆様が歩いていける範囲で医療と福祉を完結できることが地域包括ケアシステムの目標であります。その目標の實現のために今後もマキノ病院は全力を尽くしてまいります。



診療科のご案内
内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科
肛門科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099

ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

ドクターコーナー



CHOSHINKI

血液は心臓から動脈を伝って脚の隅々まで流れ、皮膚や筋肉などを通じて静脈へ行きます。

心臓への帰り道である下肢などの静脈の中の血液は、重力に逆らって心臓へ、すなわち下から上へ昇らなければなりません。そのため大切な役割を果たすのが静脈

の弁とふくらはぎの筋肉です。脚の静脈には多くの弁があり血液の逆流を防いでいます。さらに、ふくらはぎの筋肉が収縮するたびに脚の静脈は圧迫され、弁と協調しながら血液を心臓まで運んでいきます。この弁がきちんと閉じなくな

らにひどくなると脚がむくむ、重くなる、疲れやすくなる、さらに進行すると脚が痛くなる、つりやすくなるなどの症状が出てきます。このような状態が長く続くといずれ皮膚炎がおき、さらには治りにくい皮膚潰瘍になってしまう

ける必要があります。①長時間じっと立ったり、座り続けることは避ける。②弾性ストッキングを着用する。③寝るときは脚を高くして寝る。④脚を清潔に保つ。⑤適度に運動する。⑥太りすぎない。

以前は1週間ほどの入院で腰椎麻酔による手術療法が行われていましたが、二〇一一年よりレーザー治療が保険治療でできるようになり、入院期間も短縮し、症状によっては局所麻酔・日帰り手術も可能となっております。

下肢静脈瘤のおはなし

皮膚科 片岡 照貴

り、血液が逆流してしまうのが下肢静脈瘤です。

うっ血が起こり脚の血液循環が悪くなることで、さらに静脈に血液がたまり血管が徐々に太くなっていきます。はじめのうちは静脈が拡張や蛇行するだけですが、さ

ことがあります。また静脈瘤の中でうっ血が続くと血液が血管の中で急に固まってしまい、急に腫れあがって痛くなる血栓性静脈炎を起すこともあります。症状のある場合は、なるべく脚のうっ血が

起らないように次のことを心が

下肢静脈瘤は長時間の立ち仕事をしている人（調理師、理容師、教師など）や妊娠している人、出産経験がある人、血縁に静脈瘤がある人がなりやすいです。静脈瘤は急に命に関わる病

気ではないのですが、不快な症状が続く、徐々に進行してゆくの生活に不自由をきたす病気です。治療方法としては「圧迫療法」「硬化療法」「手術療法（血管除去・高位結紮術）」「血管内レーザー焼灼術」があります。

